

営農ウィークリーNEWS

京おくら目合わせ会開催 ～JA京都中央京おくら出荷部会結成～



JA京都中央の「京おくら」出荷袋

7月3日、向島事業センター2階において、「京おくら」の目合わせ会が行われました。生産者のほか市場（京果）、JA全農京都、JA京都中央会、普及センター、東部および西部農業振興センター、大山崎町、JAの担当者ら31人の出席がありました。

JA全農京都、京果の担当者から、市況の状況報告や、近郷野菜では初めてのオクラ出荷部会で大きな期待が寄せられていることなど、激励を受けました。

目合わせを行い、出荷規格を確認した後、京おくら出荷部会が設立され、初代部会長には、昨年より「京おくら」の出荷を行っている大山崎の平井章司氏が、副部会長には西田昌嗣氏が選出されました。本年は9戸、約24aの作付けで、3tの出荷を見込んでいます。



出荷規格を確認する参加者



京おくら出荷部会の皆さん

—TAC information—

美味しいトマトの表情は？



スターマーク



果頂褐変

水分を少なめに管理したトマトは糖度が高くなります。そんな、トマトは、水分控えめに管理されたトマトですよ、と自己主張しています。それが「スターマーク」や「果頂褐変」と呼ばれる果実です。特に、「果頂褐変」は収穫近くに発生しますので、糖度の高い可能性が大いにあります。

関係各氏より状況報告、挨拶をいただきました



新たな品目の京おくらは現在高単価で取引されている。今後も販売に精力的に取り組むと語るJA全農京都農畜産部の田中次長



近郷でははじめてのオクラ部会の出荷となる。量が出てくれば、セリ売りより予約相対で安定単価を図りたいと話す京都青果合同株式会社の安田係長



オクラに天敵が寄りやすく、環境を配慮した栽培が取り組みやすいと説明する京都乙訓農業改良普及センターの河合普及指導員



みんなでオクラを研究しながら、より良品生産ができるよう力を合わせていこう、と挨拶する平井部会長

目合わせ会の後、現地検討会を行いました



百間は一見に如かず、今後も、研究を重ねていきます